

第3回京都市下京区西部エリア活性化将来構想策定委員会 議事録

《日時》

平成26年9月12日（金）午前10時～午前12時

《場所》

キャンパスプラザ京都 2階 第1会議室

《出席者》

別紙一覧表参照

《議事録》

1. 開会

－省略－（欠席：新山委員）

2. 議題

◆土井委員長

皆様、おはようございます。

最初に本日の審議の進め方について、前回の委員会から変更点があるということなので、事務局から説明願いたい。

◆事務局

審議の進め方について、前回委員会での説明から変更させていただいている点を説明させていただく。前回の委員会において、今回の第3回委員会では、「将来構想中間まとめ案」について御審議いただきたいと申し上げていたが、本日配布した資料2は、「将来構想素案」という形で取りまとめている。

その趣旨であるが、七条通付近における新駅設置の件について、大内自治連合会、七条自治連合会、梅小路活性化委員会、京都商工会議所から強い御要望をいただいたことを踏まえ、8月19日にJR西日本から本市に御相談があり、現在、共同で検討を進めている状況にある。新駅の設置は、京都駅西部エリアの活性化に大きく影響する事柄であり、本来であれば、本日、そのメリット・デメリットや、新駅を設置する場合に取り組む事業案等を入れた「中間まとめ」をお示しし、御審議いただくべきであるが、なにぶん検討を始めたところであり、御審議いただける段階に至っていないというのが現状である。

私どもとしては、本エリアの活性化に大きく影響のある事項について十分に御審議がいただけないなかで、中間まとめをすることはできないと考え、土井委員長にも御相談のうえ、今回は「中間まとめ」というかたちは取らずに、「構想素案」としてとりまとめさせていただいた。

この素案について、本日、委員の皆様にご審議いただき、今後、「構想案」としてまとめてまいりたいと考えている。

◆土井委員長

それでは、議題を進めていきたい。本日の議題は2つあり、1点目が「京都駅西部エリア活性化 将来構想 素案について」である。素案の内容について、事務局から説明いただいた後、2点目の「意見交換」に入りたいと思う。

【資料説明】一省略一

◆土井委員長

杉本委員と東委員が、所用のため途中退出されるとのことである。まずは、杉本委員から御意見をいただきたいと思う。

◆杉本委員

資料2の9ページ「取組③ 商店街の活性化」のなかに私の第2回委員会での意見が掲載されているが、商店街の活性化ということとは全く違う観点からの発言であり、どちらかと言えば、14ページ「取組⑩ エリア内の回遊性の向上（小さな回遊）」を考えていくなかでの懸念事項として述べたことであるので、訂正をお願いしたい。

取組⑩の「事業案② 自転車による回遊性の向上」については、駐輪施設の確保が大前提であると思う。

6ページに本エリアの課題として「暮らしやすさの向上」が挙げられているが、そのことと「集客・観光」とは、相反してぶつかり合うということが必ず出てくると思う。エリア内の回遊性向上（小さな回遊）を目指すなかで、これまで観光とは全く関係がなかった場所にまで、どのような人がどのような動線で入ってくるのかということをきめ細かくシミュレーションしたうえで、取組を進めていく必要がある。

◆土井委員長

観光客と地域住民との間で、お互い目指すところが違うために起こる「摩擦」を念頭に、回遊に関する細かいシミュレーションを行うほうが良いというお話をいただいた。恐らくそれはエリアマネジメントのような仕組みの中で、様子を見ながら解決していくということになるのではないかな。地域の品質管理をどうするか、皆様とお話しできる場をつくっていくことが大切であると思う。

構想素案に掲載している事業案のなかには、既に着手しているものもあるので、杉本委員の御発言のように、それらをもう少し膨らませる視点からの御意見をぜひ頂戴したいと思う。

次に、東委員から御意見をいただきたい。

◆東委員

新駅設置について、地元や本委員会が中心となって、「本エリアに新駅が本当に必要だ」「新駅ができることによって、このようなまちづくりが可能となり、たいへんな価値がある」ということを発信すれば、新駅設置に向けた大きな原動力になる。

新駅ができれば、新駅周辺の活性化が期待できることに加え、その地域と大きな商業施設がある京都駅とのあいだも含めた一帯が動きやすくなることにもつながる。その意味は非常に大きいと思

うので、そのことも含めた「新駅設置の効果」を構想に盛り込んでいくほうが良い。

◆土井委員長

将来構想を、新駅設置を後押しする材料にすれば良いという前向きな御発言をいただいた。

今の御意見を受けると、資料2の13ページ「取組⑧」は「JR新駅設置とその効果」というような書き方に修正するのが良いだろう。

◆池本委員

新駅は恐らくできるだろうと、私は思っている。新駅ができるかどうかによって、第一市場の設備も大きく変わってくる。新駅周辺の市場設備については、白紙の状態でおいているので、行政としてもしっかり詰めたうえで、決定していただきたい。

観光・集客に関することと住民が暮らしやすいまちについては、分けて考えるべきであると思う。観光については、第一市場においても、賑わい施設の整備を計画し、議論を進めているところである。現状、本エリアでは飲食関係が弱い。観光面においては、今後、先日開業した KYOCA（京果会館）を核として、飲食に関する事柄のウェイトが高くなっていくと考えている。

地域住民にとっては、やはり商店街の活性化が大きなポイントになるだろう。商店街の活性化は、行政などがどれだけ良い意見を言っても、そこに住む人たちが自身が動かないと成し遂げられない。地域住民の意識改革も非常に大事ではないか。

第一市場は、全国で11ある中央拠点市場のうちの1つであり、それを維持していくための営業努力というものが問われているが、新駅設置について早く決定してもらわないと、我々としては身動きが取れない。本委員会においても、強力に新駅設置を求めていると思う。

◆土井委員長

新駅については、皆様の関心が非常に高いと改めて実感した。設置を実現していく方向で、構想にしっかり盛り込んでいくべきだという御提案を頂戴したと理解している。

◆東委員

駅をつくるというのはとても大変なことで、昔は地元が100%お金を出すという合意がないとほとんど設置されなかったが、最近は流れも変わり、JRもお金を出すというパターンも出てきた。

今回、京都市長は「完全な請願駅ではない」ということでJRと交渉していると聞いている。その際、地元からどれぐらい強い要望が挙がっているのかということが、JRや京都市を動かす原動力となる。せっかくこうした委員会があるのだから、「新駅設置を検討する」といったトーンではなく、もっと強調してメッセージを発することが、実現に向けた鍵になると思う。

◆市村委員

梅小路公園に水族館ができる時もそうだったが、大きな整備事業がなされるときには、必ず地元から反対意見が出てくるものである。

新駅ができ、京都駅を通過して梅小路へ直接向かう人が増えれば、七条商店街の客足に少なからず影響する。我々にとって新駅はメリットがあることなので、今後も設置を推進していきたいと思

うが、そうは言っても地元には様々な意見がある。

それらの意見を聞き、十分に説明し、納得していただくためにも、検討段階から地元を代表する組織を通して物事を進めてほしい。

◆土井委員長

取組を進めるに当たって、必ずプラスとマイナスの面が同時に出てくるが、地域の方々と一緒になって、それをできるだけ少なくしていかなければならない。市村委員を中心に「地域の皆様からこんな御意見を頂戴している」といったお話をいただきながら委員会での審議を進めることで、素案の中身も充実していくのではないかと思う。

◆市村委員

ただ、梅小路活性化委員会を通して、1 商店街では無理でも、6 商店街で連携してグループを組織することで、チャレンジできることの幅が広がったという経験もしている。こういった幅広い分野の人から成る大きな委員会で取組を進めていくほうが、解決しやすいことも多々あるだろうとも感じている。

◆土井委員長

そのためにも、活性化の大きな方向性・イメージを皆様にしっかりと共有していただき、そのうえで個別の話を進めていく必要があるだろう。個別の事業の是非についてはばかり議論しては、色々と摩擦が生じると思うので、全体の大きな方向性をまずは御確認いただくことが必要だと思う。

◆大島委員

商店街の活性化について意見を述べさせていただく。全国的に商店街の疲弊が進んでおり、その生活サイクルからも、共働きサラリーマン世帯がたくさん住んでいる地域の商店街は厳しいかもしれないが、その一方で、最近、都市部を中心に、新しい働き方を模索する若い人が出てきている。そうした世帯を中心に、商店街の「再発見」が盛んになってきているので、商店街の超氷河期は緩みつつあるのではないかという感覚を抱いている。

資料 2 の 9 ページ「取組③ 商店街の活性化」のなかに「事業案③ 空き店舗の有効活用推進」とあるが、空き店舗は単純に「まちづくり」だけではなく、契約や土地問題、税金、相続等のさまざまな課題があることを踏まえ、それらの課題に対応する仕組みや事業構築もセットで取り組んでいくことが大事だと思う。

京都駅西部エリアにおいては、8 ページ「取組② 食文化の牽引」とリンクすることで、このエリアならではの空き店舗の活用が展開できるのではないか。商店街におけるチャレンジショップとして、よくある「雑貨」「喫茶店」といったものではなく、第一市場近接の地の利をいかした、「青果」「鮮魚」を扱う飲食店などがあると面白い。例えば、チャレンジ期間を 1 年間と定め、起業した暁には中央市場と取引できるといったルートをつくっておけば、市場の取引量増加にもつながるし、まち全体で商店街を盛り上げていくという事業構築が可能かと思う。

このように、各分野の取組に横串を刺していくことで、京都駅西部エリアの特徴を出すことができるのではないか。先に挙げた事例の他にも、例えば、IT 関連のイベント等でよく利用されている

KRP の「町家スタジオ」(西陣のサテライトスタジオ)と同様のイメージで、KRP との連携により、エリア内に飲食関連のベンチャーを育てていく事業などができれば面白いと思った。

また、5 ページに、エリアの課題として「低・未利用地の活用」が挙げられている。こうした土地について、ポジティブに捉えなおせば、「まちの記憶を遺すアーカイブがたくさん眠っている」と考えることもできる。例えば、梅小路公園周辺の倉庫群などは、まさにこのエリアが物流の中心地であったという生きた証拠だと思うので、こういうものをまちのアーカイブとして再整備し、インキュベート拠点や飲食関連のベンチャー等に活用していくといったことをエリア全体で展開すれば、より面白くなるのではないかと感じた。

◆土井委員長

さまざまな御提案をいただいた。「事業案③ 空き店舗の有効活用推進」の中身が「空き店舗対策事業の活用」だけでは面白みに欠ける。大島委員が言われたように、各分野の取組に横串を通すことで次の活動が見えてくると思う。倉庫の活用については、大阪の海遊館付近に立地する旧・住友倉庫などのリノベーションの事例も参考になるだろう。京都駅西部エリアでも、そのようなイメージで取組が展開できれば面白いと思う。

◆内田委員

素案全般について、よくまとめられていて非常にわかりやすいと感心している。そのうえで、やはり新駅設置は活性化の絶対条件だと思うので、実現に向け強く要望したい。

個々の取組について申し上げる。まず、資料 2 の 8 ページに「取組① 公園の活用」とあるが、ランニングでの活用を促進するには、例えば皇居周辺のように、ロッカーやシャワーなどのサポート施設の設備が必要である。駅の近くという立地から、通勤途上の方々の利用も見込めるだろう。10 月に梅小路公園で開催されている「九条ねぎラーメンバトル」では、毎回、水回りの設備等を仮設しており、協賛金を含め多額の事業費を要している。イベントの度にそうしたお金がかからないよう、公園に排水設備等をある程度整備することができれば、活用がより一層進むだろう。

また、前回の現地視察時に感じたのだが、このエリアには水場が少ない。夏に梅小路公園でイベントがあっても、現状のままではとにかく暑くて、潤いに乏しい印象を受ける。例えば、園内に噴水などがあれば、親子連れをはじめ、夏場の来訪者が増えるのではないか。ベンチも少ないので、整備が必要であると思う。

市場について、8 ページ「取組② 食文化の牽引」に「事業案② 第一市場を中心とした“食”による新たな賑わいの創出」とある。現在も既にさまざまな催しを行っているので、何かのかたちでリンクしながらこのエリアの活性化につなげていければと思う。また、そうした催しについてもっとたくさんの方に知っていただけるよう、広報を充実する必要もあるだろう。

七条通側に「賑わいエリア」を整備する話が出ているが、実は KRP の周辺こそ食べる所が少ないので、五条通側にも飲食に関する施設が必要なのではないか。例えば、市場の施設整備に伴い発生する余剰地を活用し、そうした施設を誘致・整備するといったことも考えられると思うが、市による整備計画の作成が進んでいるので、早めにそうした意見を出した方が良い。また、飲食店が足りない背景には、平日の集客が少ないことが原因としてある。もう少し平日の、特に夜間の人通りを増やすことができないと、飲食店の誘致も難しいのではないか。

10 ページ「取組⑥ 歴史・文化の魅力発信」の「事業案② 資源のネットワーク化」の中に「案内板の整備」とある。海外からの観光客から、「表記が全部日本語で分からない」というクレームを一番よくきくので、最低でも 3～4 か国語（英語・中国語・韓国語等）の表記による案内が必要であると思う。

15 ページに、まちづくりの主体やエリアマネジメント組織についての記述がある。我々が KYOCA（京果会館）のリノベーションを行った際には、京都市とも色々と話をし、方向性を確認しながら整備を進めてきた。エリア内に他にも土地やビルを所有しており、今後それらをどう活用するかは、本委員会や市の方向性とある程度合致するかたちで考えていくつもりだが、地権者・所有者は決して一枚岩ではなく、積極的に市の方向性に沿って利活用を進める方ばかりではないと思う。そのあたり、どのようにして意識の統一を図るか、地権者・所有者が何かを行う際に、エリア全体の活性化の流れに沿った整備をしてもらうにはどうしたら良いか、非常に難しい問題だが、検討していく必要があるだろう。

最後に、本エリアの活性化に関して、市から府にどんな働き掛けをしているのか、気になっている。JR 嵯峨野線で亀岡と繋がっており、京都スタジアムが建設されれば、亀岡への大きな人の流れができる。今後、京都府と協力していかなくはならない場面が出てくると思うので、そのあたりも念頭に置きながら取組を進める必要があると思う。

◆土井委員長

公園に水が足りないという御意見について、今回の構想には「防災」の観点の話があまり表に出ていないが、皆が内心気になっていることではないかと思う。梅小路公園が担う広域的防災機能は非常に重要で、いざという時のために、水回りや簡易な調理用コンロ等の設備を備えることも、これから必要になってくるだろう。そうした設備を、災害時だけでなく、イベント時にも活用できれば、梅小路公園の使い勝手を広げることににつながるのではないかと。

また、エリアマネジメントが非常に大事だという御意見もいただいた。大島委員が岡崎地域のエリアマネジメントに関わっておられるので、参考にそのお話を聞かせていただけるとありがたい。

◆大島委員

岡崎地域には「京都岡崎魅力づくり推進協議会」という組織がある。市が事務局を担っており、立地する施設や自治会・商店街のほか、まちづくりに関係する約 30 の団体で構成されている。複数の事業を展開しているが、岡崎において主眼に置いているのは、現段階では「情報を発信していくこと」が主要な取組となっている。

一方で、この京都駅エリアについては、さまざまな事業を展開していくなかで、その触媒となっていく役割が求められると思う。既存の岡崎、あるいは烏丸やらくなん進都などとは異なるかたち・役割のエリアマネジメント組織になるのではないかと、個人的には考えている。

◆土井委員長

エリアマネジメントを進めていくうえでは、15 ページ「取組⑪ 多様な地域主体の連携によるまちづくり」の「事業案② 多様な地域主体が連携できる仕組みの構築」のなかに「リーダーとなる人材の発掘・育成」とあるが、発掘は難しいので、むしろ育成していくことが大事ではないか。

きちんと学びなおしの場をつくり、活動に協力いただける方をどんどん増やしていくことが、エリアマネジメント組織としての重要なミッションであると感じた。

◆本政委員

新駅設置について、JR と京都市に要望を出した団体の構成員として、一言申し上げる。JR 関係者などから側聞したところでは、新しい駅を設置するにあたり、JR が費用を負担することはなかなかないということである。

そこで、本当に駅をつくりたいということになれば、地元の声も非常に大事だとは思いますが、やはり最後は、京都市がどの程度費用負担することができるのかという点に話は落ち着くのだと、私は理解している。その点から、本委員会では、新駅設置の実現をもっと強く打ち出し、市を動かすくらの役割・使命を持って取り組んでも良いのではないかと考える次第である。

◆京都市 白須産業戦略監

京都市産業戦略監の白須です。私は事務局とは少し立場を異にし、京都市全体の施策・事業について産業振興の観点から意見を申し上げるという立場から、本委員会に参加している。

新駅をつくる場合、確かに財政的な課題についての協議は重要だが、一番大事なのは、駅ができることによってどんなメリット、賑わいを生み出すことができるかということ、きちんと示すことである。それは単に商業的・観光的な賑わいに限ったことではない。新駅周辺が京都の新しい拠点の一つとなり、かつ、地元の方にとっても暮らしやすいまちになるということを明らかにすることで、新駅設置の検討を推し進めやすくなると考える。

◆土井委員長

鉄道会社に勤めていたときに新駅の検討をした経験があるが、新しい駅はその両隣の駅の利用客を吸収することが多く、それだけでは新駅効果にはならない。そこで「新しい利用をどれだけつくりだすことができるか」が鍵となる。本エリアについても、京都駅から移ってくる利用客だけでなく、新たに新駅から乗降する客が増えることが非常に大事であり、その点から、地域の賑わいを検討すること、更には、公共交通の利便性向上による自動車利用から公共交通利用への転換を推進することについて、JR に対するアピールの意味も込めて、きちんと構想に書き込んでおくほうが良いと考える。

◆小西委員

素案は概ね良くできており、特に異論はない。そのなかで、大阪ガスとしては、資料 2 の 8 ページ「取組② 食文化の牽引」について、さまざまな連携・協力ができるのではないかと考えている。また、KRP としては、これまで以上にイノベーション・ハブ機能を強化して、先端企業の誘致や新産業の創出に貢献していきたい。昼間人口の需要の多さを踏まえて、できれば七条通だけではなく五条通側にまで、構想の焦点の範囲を広げていただければと思う。

そして、極めて重要なのが、15 ページにある『まちづくりの仕組み』を構築することである。本エリアに存在する、あるいは軸足を置いて活動している事業者や団体が、公平平等かつ主体的に対応していく必要があり、例えばアメリカで普及している BID (Business Improvement District)

のような仕組みを研究してみるのも良いと思う。運営主体についてやり方は色々あるとは思いますが、いずれにしても「誰が主体的に計画し、実行していくか」というところが定まっていないと、絵に描いた餅になってしまう。また、これからの話になるだろうが、構想推進の全体的なスケジュールがわかるような記述があると、もっとわかりやすくなると思う。

◆土井委員長

計画をどのようにつくりあげ、実現していくかということについて、御提案いただいた。五条通については、まず地域の皆様を巻き込み、話をさせていただくところからのスタートになるかと思う。

◆大濱委員

前回急きょ欠席させていただいたが、議事録等を読ませていただき、「歩くまち」の発端として、歩いてみたいと思うような公共交通機関の整備が必要なのではないかと感じた。

子育てをしながら仕事をしており、自宅に帰るのが夜の7時を過ぎてしまうのだが、七条通の商店は大体6時前後で閉まるため、そこで買い物ができないのが現状である。子育て世代、働く世代と商店街とをいかにつなぐか、そのきっかけやツールとなるものが欲しい。以前、専業主婦の頃、忙しいときに、顔馴染みになった商店街の方に欲しいものをあらかじめ伝えておくと、置き置きして揃えておいてくれたという経験がある。そういった人との繋がりをどうやって維持し、広げていくか。エリアマネジメントの話などを聞いてなるほどと思ったが、そうした仕組みを考える必要があると思う。

新駅について、新聞記事に「嵯峨野線（山陰本線）上に設置される予定」とあったが、周りには大阪や神戸に出勤される方が多く、嵯峨野線上に駅ができることでどうアクセスが良くなるのか、疑問に感じる。住民の目線で見たとときに、新駅をつくるのであれば、「何線につくるか」ということが重要な要素になると思う。

また、KRP内のディリパ京都（大阪ガスのショールーム）で子育てイベントを定期的を開催しており、その際よく感じるのは、公共交通機関でのアクセスがあまり良くないということである。特に子育て世代は、ベビーカーを押しながら歩いたり乗り継ぎしたりするので、なるべく近くにバスの停留所があってほしいし、市内の主要ターミナル（京都駅、四条界わい等）から1本で行けないことがネックとなっている。子育て世代が動きやすいことは、ひいては、高齢者にとっても動きやすいことに繋がると思うので、そのあたりの課題も含め、エリア全体の回遊システムをどう構築していくか、考える必要があると思う。

◆土井委員長

今のお話の中で印象的だったのは、買い物の置き置きをしてもらえという話である。他所ではなかなかできない地域なのだとすることを、まずは住民の皆様に誇りに思ってもらい、そうした特徴をうまく内外に伝えられると良い。

様々なまちづくりの取組に関わる中で思うのは、昔と変わらない営業の仕方を続けている商店街と、生活様式が変化した住民との間にミスマッチが生じているということである。そのミスマッチを埋めなければならないと気づき、実際に取り組んでいる店に客は集まってくる。商店街と住民がお互いに学び合うことが大事であると考えている。

また、住民の御意見として都心や京都駅へのアクセスの問題が提起された。これは、この地域の大きな課題であると考えられる。

◆西村委員

ただ今、消費者の立場から商店街に関するお話をいただき、ありがたく思う。私も6つの商店街のメンバーであり、素案を見て、改めて商店街の存在の大きさを感じた次第である。平成28年春に鉄道博物館が、また近い将来に新駅ができることになれば、七条通界わいの雰囲気は大きく変わる。鉄道博物館などを訪れた方々が、このエリアをより楽しく回りたと思ったときに、その動線の役目を果たすのが、この6つの商店街になるのではないかと思う。

先般、6商店街のうちの1つである七条中央サービス会の執行部と、PTA・女性会の方々を含む地元の各種団体とで、会合を行った。その際、商店街側は「鉄道博物館ができれば、いずれこのあたりも賑やかになるだろう」という待ちの姿勢を示したため、鉄道博物館が開業するまでの2年の間に、商店街自体が力をつける活動をしてもらわないと困る、ということを上申した。

商店街の客層は圧倒的に高齢者が多く、対面販売の良さを御存じの方ばかりだが、近年、学区内にマンションが林立し、若い世代、共働きの家族の居住が増えた。そうした方々からは、対面販売でゆっくり買い物をする時間がないという声をよく聞く。今大事にしている年配のお客さんをどうするか、その一方で、新しいお客さんをどのように掴んでいくかという2つの課題があり、商店街の執行部も苦勞している。PTAの若い方からは、「買い物をする場所としての七条中央サービス会は、取り立てて面白みのない場所である」という御意見も頂戴しており、そうした厳しい御意見を含め、地域の皆様からの声に耳を傾けて、商店街としてもこれから色々と考えていくということであった。

平日の夜、場合によっては夕方には、人通りが全くなくなるというような状況なので、もう少し商店街としても活性化に向けた自助努力を積み重ねていかねばならないと思う。近々、消費者である住民と商店街との会合が再び催されるということである。地域の皆様も地元商店街が賑わうことを望んでいるので、この流れを大事に、しっかりと取り組んでいく必要がある。商店街の賑わいが、ひいては地域の活性化にも結びついていくということで、商店街の役割の大きさを感じている。

◆土井委員長

商店街について、「待ち」の姿勢ではなく、新しい社会の変化にも合わせて活動していこうというお話だったと思う。引き続き、活発な活動を期待します。

◆川原委員

京都駅西部エリアについて、地元の方にとって暮らしやすいまちづくりや商店街の活性化といった「居住」の視点も大切だとは思うが、より活性化していくには、やはり「集客」の視点を無視することはできない。実は、独身女性にとってこのエリアは京都のなかで最も評判の良くない場所だと思うのだが、京都は全国的に見ても未婚の女性が多く、それはつまり、自分で自由にお金を使える人が多いということなので、そうした世代の意見も構想に反映していけると良い。

9月21日に梅小路公園で「京都音楽博覧会」という音楽祭が開催される。京都出身のロックバンド「くるり」が主催するもので、今年で8回目を迎える。まちなかでの音楽祭は全国的にも珍しく、京都駅から歩いて行ける距離にあるということ、また、鉄道を愛する主催者が梅小路という場所に

特別な愛着を感じており、地元京都を盛り上げていきたいという思いでこのイベントを立ち上げたことから、水族館開業後も、イルカショーに配慮した演奏をするなどして、立ち上げ当初とは形を変えながら継続開催されているものである。

ところが、その会場では、「ものすごく暑いのに、お茶を飲んだり休憩できるところがない」という話を数多く耳にする。また、そうしたネガティブなコメントが、リアルタイムに Twitter（ツイッター）等でつぶやかれている。京都の内外からたくさんの人が、とりわけ SNS などでの情報の受発信を得意とする世代の人が多く集まる大型イベントで、「京都音博は面白いけれど、会場の周りには何にもない」ということが全国的に発信されてしまっているのが現状である。

前回委員会で御意見のあった「少しおしゃれな日常空間」のようなものが周りにあれば良いが、イベントで全国からたくさんの人がこのエリアを訪れても、他に楽しむものがなく、そうした情報がまた今年も SNS などでも拡散していくことになると思うと、寂しい気がする。観光客だけでなく、地元京都の人間がそういう風に感じていることも問題だと思うので、活性化を考えるうえでは、若者や地元の人を楽しめるエリアにしていくという観点を大事にしてほしい。

◆土井委員長

例えば KYOCA（京果会館）や商店街など、来訪者が求めるコンテンツは、きっとたくさん周辺にあると思う。そういった場所や人と、イベントで梅小路を訪れた方たちとの間で、情報の共有が十分にできていないことがあるのではないかな。新しいものをつくることはもちろん、今あるものを上手くいかして、来訪者のニーズに応えていくことが大切だ。

◆川原委員

確かに、KYOCA（京果会館）については、SNS などでも若者からもたくさんコメントが書き込まれているのを目にする。今年の音楽博覧会ではそうした所に人が流れて、これまでとは違う反応があれば良いと思う。またそのような反応をいかして、新たな事業・取組が生まれることにも期待したい。

◆土井委員長

ミスマッチを埋めていけるよう、皆で縦横に取り組んでいきたいと思う。

◆荒川委員

資料 2 の 7 ページ、「活性化に向けた取組イメージ」の図にあるように、将来ビジョンというものを言葉で表してもらえると、私たちも具体的なイメージを考えやすい。「多彩な地域資源が連携し」、「新しい賑わいを創出する」とあるが、それがどんなものなのかをより具体的にしていくのが、本委員会の役割であると思う。

皆様のお話を伺うと、地元住民や事業者、あるいは商店街の方々など、非常にポテンシャルを秘めていらっしゃるがよく分かる。「取組①～⑦」は、こうした地元の方との協働により、進めていく部分かと思う。一方で、“アクセス・回遊性の向上”と“まちづくりの仕組みの構築”という「2 つの仕組み」が「取組①～⑦」の下に並んでいるが、こうして書くと、7 つの取組を実施した後でのことのように見えてしまう。実はそうではなく、最初に着手すべきことはこの「2 つの仕組み」であり、10 年間という構想のタイムスパンの中で、まず「回遊性の向上」「まちづくりのシ

ステム」といった仕組みづくりから始めることで、取組全体が活発になるだろうし、新駅ができたときには、それをベースにして更に効果が上がっていくと思う。

取組のなかでも、特に「歩くまち」など、京都市のビジョンとも重なる部分については、このエリアで先行していくぐらいの勢いで進められると良い。その際、いくつかテーマがあると思うが、1 つはやはり「緑」である。素案には緑が豊かなエリアだと書いてあるが、公園やお寺の境内といった限られたゾーンに集中しており、歩く道沿いにはあまり緑がないというのが実情である。公園の延長のような道路ができ、木陰など休める場所があり、さらにはそこで様々な情報を入手できるといったような姿を描けると良いのではないか。「回遊」というのはただ歩き回ることだけではない。歩いて佇んで、佇んだときには休んだり、食べ飲みができたり、情報を得たり、場合によっては体験したり、遊んだりして、それからまた歩いて次のポイントに行って…というようなネットワークを組んでいくことこそが、他ならぬ「回遊」であると考えている。

そうしたネットワークをつくる時には、ユニバーサルデザインの観点や観光都市にふさわしいサイン計画の作成も大事である。また、ネットワークの線上に、何か京都的な魅力が必要である。このエリアに集う人々、特に観光客は、単に新しいものがあるから来るわけではなく、「京都に来る」ことを前提として集まっている。例えば、道路上に点在する空き家になった町家を有効活用するなどして、人の流れをできるところからつくっていくべきだと思う。

◆土井委員長

素案全般に渡る御意見を頂戴した。全体を通して、御意見があればお伺いしたい。

◆市村委員

皆様から商店街の活性化についてたくさんの御意見をいただいたが、1 つネックになっていることがある。商店街の中には、いわゆる大地主がいて、その方が一旦商売を止められると、シャッターを下ろしたまま空き店舗を貸さないということがある。

例えばそういった方にも本委員会にお越しいただいて、この機会に我々の意見を伝えることができると良いのだが、それは難しいと思うので、まずは、そういうハードな問題を抱えているということを皆様に知っていただきたいと思う。

◆土井委員長

この委員会では難しいとは思いますが、別途そういう場を、例えば区役所などと連携することで、設けることができるかもしれない。

◆白須産業戦略監

京都市には商業振興課という部署もあるので、市村委員と後でよくお話をしたい。そうした問題は、このエリアだけでなく、京都のいくつかの商店街で存在しているので、きっちりと受け止め、考えていきたいと思う。

◆土井委員長

京都市できちんと対応するとのことで、またその意見の中身をやり取りできると良い。

さて、先ほど池本委員が言われたように、「自分たちの手でこのまちを活性化していくのだ」という意識を持つことが、やはり非常に大事なことだと感じている。地域の人が自分たちのこととして主体的にまちづくりに取り組み、それが自分たちにとって非常に良い結果となって還ってくるといような仕組みが、このエリアで望まれていると言えるのではないかな。

将来構想をまとめた結果を、次にどう展開していくかということも念頭に置いていただいて、今後も引き続き議論を重ねていきたいと思う。

以上で本日予定していた議事はすべて終了した。皆様には、活発な御議論をいただき、御礼を申し上げます。

最後に、事務局から何か連絡事項等があれば、お話ししたい。

【資料説明（今後のスケジュールについて）】－省略－

3. 閉会

◆事務局

次回委員会の進め方等については、土井委員長ともしっかりと相談したうえで、事前に皆様にお知らせしたいと考えている。

それでは、第3回将来構想策定委員会を、これで閉会とさせていただきます。

皆様どうもありがとうございました。

以上

京都市下京区西部エリア活性化将来構想策定委員会

第3回委員会の出席者一覧

	氏 名	役 職 等
委員長	ど い つとむ 土井 勉	京都大学大学院工学研究科 特定教授
	あずま のりあき 東 憲昭	京都商工会議所 地域開発・都市整備委員会 副委員長 (京都駅ビル開発株式会社 代表取締役社長)
	あらかわ あけ み 荒川 朱美	京都造形芸術大学環境デザイン学科 教授
	いけもと しゅうぞう 池本 周三	京都市中央卸売市場協会 会長 (京都全魚類卸協同組合 理事長)
	いちむら まさる 市村 勝	梅小路活性化委員会 委員長
	うちだ たかし 内田 隆	京都市中央卸売市場協会 副会長 (京都青果合同株式会社 代表取締役社長)
	おおしま さちこ 大島 祥子	一級建築士事務所 スーク創生事務所 代表
	おおはま いく え 大濱 育恵	市民公募委員
	かわはら 川原ちかよ	エフエム京都DJ
	こにし まさゆき 小西 雅之	大阪ガス株式会社 常務執行役員 京滋地区総支配人
	すぎもと せつこ 杉本 節子	公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会 常務理事 料理研究家
	にしむら ためひこ 西村 為彦	七条学区自治連合会 会長
	ほんまさ かずよし 本政 和好	大内学区自治連合会 会長

《五十音順（委員長除く）、敬称略》